輝いてます

ひと

市内最高齢者

山菅（やますげ）ときゑ（え）さん

健康な歯と俳句でいつまでも元気に

「生きてればたのしい時も去年今年」
お気に入りの作品を手にほほえむ山菅さん

健康で長生きすることは、みんなの願いです。現在、蕨市内で一番のご長寿は、105歳の山菅ときゑさん（北町2丁目）。100歳の時に入居した介護施設で元気に生活しています。

山菅さんの長生きの秘訣（けつ）は、丈夫な歯。105歳にして20本以上の歯がそろっていて、大好きな果物をはじめ、バランスの良い食事を三食しっかり食べます。健康な歯を保つため、歯磨きには15分かけ、口のマッサージを行うなど、地道な習慣を続けています。

山梨県出身の山菅さんは、夫の医院開業を機に蕨市に移り住みます。長年、専業主婦として献身的に家族を支えてきましたが、平成4年に夫が他界。心に空いた穴を埋めたのが、趣味の俳句でした。俳人の宇多喜代子（うだきよこ）さんが好きで、雑誌に投稿した「立春や飴（あめ）のいろいろ並ぶ店」の句が宇多さんから「気持ちの弾みをよく出している」と、講評されたのをきっかけに俳句に夢中になっていきます。「俳句は自分の感情を表現できる場。短い単語で表現するための試行錯誤は、頭の体操にもなります」と、山菅さん。思いついた言葉を書き留める手帳には、文字がびっしり。分厚い歳時記（さいじき）を大事そうに抱えて俳句を作る姿に、施設の職員は「勉強熱心でいつも刺激を受けています」と、感心しています。

先月5日には、市内最高齢者として市長の訪問を受けました。その際、「青雲や市長迎える一〇五才」と、爽やかな秋の空と晴れやかな気持ちを詠んで出迎えました。これらの作品は施設の入り口に飾られ、みんなが新作を心待ちにしています。

「これからも、たくさん食べて長生きして、みんなを楽しませる俳句を作ります」。自慢の歯をのぞかせてにっこりと笑う山菅さんです。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.101—

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎・孟斎合筆「東京開化名勝記 海安寺紅葉の盛　鮫頭明神古事」
1875年　沢村屋板　大判錦絵

本図は上段を暁斎の年上の兄弟子だった孟斎（もうさい）が、下段を暁斎が描いた合筆（がっぴつ）作品です。上段には当時、紅葉（こうよう）の名所として知られていた海晏寺（かいあんじ）の紅葉（もみじ）が描かれています。

下段では暁斎が、当時は品川沖の海が広がっていた海晏寺の門前で捕獲された大きな鮫（さめ）の腹の中から聖観音菩薩（しょうかんのんぼさつ）が出現したことから寺のご本尊としたという伝説を描いています。暁斎は、聖観音菩薩を女性に見立て、大きな鮫の頭に頬杖（ほおづえ）を突き、光り輝く珠（たま）を持った美女として描いています。

河鍋暁斎記念美術館　開催中（25日まで）

企画展「暁斎・暁翠　風景画」展
同時開催　特別展「立原位貫（たちはらいぬき）　復刻版画」展

詳しい内容は館ホームページを御覧ください

開　館＝午前10時～午後４時　ところ＝南町４-36-４
休　館＝火・木曜日、26日～末日
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
　　小・中学生300円　65歳以上500円
　　※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治９年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋（かわなべ）暁斎（きょうさい）
天保２年（1831）
～明治22年（1889）

●広報蕨　№891　●発行／蕨市役所　☎048（432）3200　●編集／秘書広報課広報広聴係